

1年 前期の実践

H.15.10.31

[学年研修目標] 自分の思いを持ち、自然や友達との関わりを大切にして活動する子

[活動のテーマ] ときどき わくわく!ともだちいっぱい

育てたい力

・身のまわりの生活の中から、したいことやしりたいことを見つけ、こだわりを持って活動を続けようとする。

(興味・関心・態度)(課題設定の能力)

[生活科の学習の中で、「ふしぎだな。」「もっと知りたいな」「こんなことしたいな。」という思いを持てる子を育てる。また、仲間と関わり合う中で、友達の気づきに共感したり納得したりして、新たな疑問や問題を感じることで育てたい。]

1 具体的な活動内容と児童の表れ

(1)ともだちいっぱい(1学期)

目標

- ・学校にはその回りの自然、人々、施設などに関心を持ち、楽しく学校生活を送ることができる。
- ・学校には友達や先生がいて、たくさんの施設がそろっていることに気づくことができる。

しんぼるまーくだいさくせん

4月半ば、学校生活が始まったばかりの子供たちに、自分のマークを決めて、友達と紹介しあおうと声をかけ、シンボルマーク作りをした。子供たちは、自分の好きな生き物や花、果物などからマークを決めて、お道具箱やロッカー、下駄箱、袋かけなど好きなところに貼った。また、シンボルマークと名前を書いた名刺を作り、体育館で、学年全体の友達と、自己紹介をしながら名刺交換を行った。このような活動の中で、子供たちは、自分のマークに愛着を持ち、学校全体の友達と仲良くしていこうという気持ちを持つことができた。

がっこうたんけん

4月に入学して、少しずつ学校に慣れてきた子供たちは、5月になって、2年生に案内されて、学校探検を行った。子供たちは、学校の中にいろいろな教室があることを知り、2年生といっしょに楽しく活動できた。その後、行けなかった教室にも興味を持ち自分たちで興味を持ち、自分たちで教室をまわりはじめる子も見られるようになった。特に理科室や音楽室、視聴覚室などの特別教室の中をもっと見てみたいという声の子供たちから出てきた。そこで今度は、1年生だけで特別教室を中心に学校探検を行った。さらにこの探検から、その教室についてもっと知りたいという新たな疑問が生まれた。先生に聞いてみたいという子供たちの声から、同じ質問の子供たちでグループを作り、休み時間に質問に行った。しかし、まだ、自分の思っていることを伝えたり、相手の伝えたいことを聞き取る力が十分でないため、聞きたいことを聞いてこれない子も見られた。



(2) いきものだいすき(1学期)

目標 栽培・飼育活動を通して、継続して動植物と深くかかわっていくことによって、それらも自分たちと同じように生命を持っていることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができる。

あさがおとともにだち(朝顔のちょっとした変化や、成長に気づく子)

「あさがおとともにだちになろう。」と投げかけ、連休明けに子供たちは種をまいた。「たくさんきれいな花をさかせたい。」という思いを持つ子供たちに、そのためにはどうしたらよいかを考えさせた。「みずをたくさんあげればいい。」と、子供は毎日いっしょうけんめい水をあげたが、せっかく出た芽が枯れてしまった子もいた。「みずをあげすぎてもいけない。」と気づいた子供たちは、下のお皿に水がたまっているか見たり、土をさわって乾いていないか見たりして、水をあげるようになった。

本葉が出た時、形だけでなく色や手触りの違いにも気づいた子のつぶやきをひろい、みんなに投げかけることで全体に広げていった。

つるがのびたことに気づいた子供が「つるさんがどこかにつかまりたいよといってるよ。」「このままだとふまれちゃうよ。」「ぼうをたてたい。」とつぶやき始めた。そんな成長にも気づかない子供も、友達の気づきに気がつき、支柱を立て始めた。つるを無理にまいて、折れてしまったことから、「つるはまかないとどうなるかな。」と投げかけた。つるの成長に関心を持って見始めた子供たちは、「じぶんでうえにのぼっていったよ。」「てっぺんまでいくと、よこにまいていくよ。」と、少しの変化に気づく子も表れてきた。

その後、夏休みには、家でも観察し、種取りもして、自分たちがもらったように、来年の1年生のためにプレゼントしようということになった。



どうぶつとなかよし

去年、ひなだったチャガモ、今はもう卵をうむまでに成長したが、大きさとしては小さくおとなしいので、1年生の子供たちも怖がらずに触ったりだっこしたりすることができた。中には、生き物になれていない子もいて、はじめは触れることができなかったが、おとなしいことがわかると背中をこわごわなでながら、羽がふわふわしている様子を実感し、生き物に親しむことができた。

2 活動の反省

(1) 反省

- ・学校探検は、2年生に学校を案内してもらったことで、「もっとしりたいな。」という思いが生まれ、1年生なりの課題意識を持つことができた。それが、「いろいろなきょうしつをもっとみてみたいな。」という思いになり、次の活動へとつながっていった。
- ・「あさがおとともにだち」では、「あさがおとともにだちになろう。」と投げかけ、どの子も「きれいな花をたくさんさかせたい。」という思いを持って活動できた。朝顔の成長やちょっとした変化に気づく子供が多く見られた。気づかない子供も、友達の気づきに共感して、活動ができるようになった。
- ・学校探検で、いろいろな教室についてもっと知りたいという思いから、先生に質問に行ったが、まだ、自分の思っていることを伝えたり、相手の伝えたいことを聞き取る力が十分でないため、聞きたいことを聞いてこれない子供も見られた。まだ、この時期には、質問するという活動は無理であった。